

前 奏 黙想	祈 禱
招 詞 詩編 100:4~5	讃 美 歌 333 主よ、われをば
讃 美 歌 6 われら主をたたえまし	献 金
祈 禱	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
信仰告白 使徒信条 566	黙 禱
聖 書 民数記 5:6~7	主の祈り 564
ルカによる福音書 19:1~10	頌 栄 542 世をこぞりて
讃 美 歌 403 かみによりて	祝 禱
説 教 『アブラハムの呪いと祝福』	後 奏

教会ではよく知られた「徴税人ザアカイ」とイエスとのやり取り。場所は海拔 250m 以下の極低地にある町エリコ(ルカ19:1)。街道筋のエリコは、交易や、なつめ椰子の栽培などで経済規模が大きい。ということはローマ帝国の税収入も莫大で、町の徴税人頭ザアカイ(19:2)は相当な金持ちであった。

イエスはザアカイの家に泊まり、ザアカイは回心を表明する(19:8)。「イエスは言われた。〔今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから〕(19:9)」。かつてのザアカイにとって「アブラハムの子」であることは実に呪わしかった、と思う。徴税人は帝国の権力をかさに着、その手先として同胞から税を搾り取る。これほど憎まれることはない。どうせ同胞との交流など無いのだから、いっそ「アブラハムの子」なんかではない方がずっと気が楽だったろう。しかし税徴収を現地人にやらせるのが帝国統治の陰湿さ。支配者への憎悪を現地人同士に転化させる仕組みは、近代の植民地政策でも使われている。裏切者で汚らしい大金持ち。メラメラ燃える民の怒りは徴税人へむけられる。

評判高いイエスを一目でも見ようと、街道沿いは群衆でごったがえしている。高価な衣服をまとったザアカイは悪目立ちし、「群衆に遮られ(19:3)」、排斥され、唾を吐かれ、近づけない。だから木に登ってイエスが来るのを待った(19:4)。この場面の直前、物乞いをしていた盲人が「〔わたしを憐れんでください〕と叫んだ(18:38)」。物乞いの盲人は、願いを率直に訴え続けることができた(18:39)。だがザアカイにはそれができない。どうしてか。金があり、金で思い通りになることもある。強面で税をむしり取っているから人前で弱さを表せない。だから胸深くにある「孤独」を押し殺していた。

イエスが木の下を通りかかると、見上げて言われた。「ザアカイ、急いで下りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい(19:5)」。なぜ彼の名を知っていたかはともかく、イエスは樹上にいるザアカイの苦悩をキャッチした。訴えることができない孤独の沈黙が、イエスに共振した。「人の子は、失われたものを捜して救うために来た(19:10)」と言う通り、失われている「ザアカイ」の名を呼んだ。

人々が口々に非難する中、イエス一行はザアカイ宅に泊まった(19:7)。そこで何が語られ、何が起ったかは分からない。ところがザアカイは回心してこう言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します(19:8)」。

「主を欺き、その人が責めを負うならば、犯した罪を告白し、完全に賠償し、それに五分の一を追加して損害を受けた人に支払う(民数 5:6~7)」。律法ではだまし取った場合、同額に 1/5 を加算して賠償すれば赦されるのだが、四倍にして返すとまで言った。「だれかから」と自分でも分からないくらいだから、悪辣な徴税をずっと続けて来たのだろう。人間の罪は数えきれない、とも言えようか。

「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから(19:9)」。ザアカイにとって「アブラハムの子」であることは「呪い」だったが、「祝福」に変わった。「信仰に生きる人々は、信仰の人アブラハムと共に祝福されている(ガラテヤ3:9)」。ザアカイはアブラハムと共に祝福を受け、唯一の頼みだった金や財産から解き放たれた。そして「約束された “霊” を信仰によって受ける(3:14)」。

アブラハムの子であり徴税人の子である呪わしさ 憎悪を受ける代償としてますます強欲になったアブラハムと共に受ける祝福 キリストによってアブラハムを超え なおも広く深く (ガラテヤ3:14)

本日礼拝後に役員会があります。そしてカレーの日ですから、どなたでも遠慮なくお召し上がりください。9/10(水)12:00~2:00 エステル会。9/13(土)1:30~3:00 聖研・祈禱会。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。